



第20号 発行所 近畿大学農学部緑友会 広報・編集委員会 編集委員長 奥村 博司 631-8505 奈良市中町3327-204 TEL: 0742 (43) 1511 http://www.nara.kindai.ac.jp/



会長就任に当たり、

挨拶申し上げます

緑友会会長 松田 克礼



この度、高谷先生の後任として、会長に任命された松田です。私は、昭和59年に、農学部農学科を卒業しました。先輩の方々、後輩の方々、どうぞよろしくお願い致します。

近頃、近畿大学は高校生からの人気も高く、志願者数は2年連続で全国1位となりました。テレビや新聞、雑誌などにも色々な事が紹介され、「最近、よく近大の名前を聞くなあ」と感じておられると思います。この追風に帆をあげて、皆様卒業された農学部も順調に前進しています。現在、近畿大学を卒業された校友の会員数は、498、006人、西日本1位、全国5位となっています(平成27

さらなるブランド力の向上!

農学部長 重岡 成



緑友会の皆様には、ますます清潔なこととお喜び申し上げます。また、平素より農学部発展のため、多大なご支援とご鞭撻を賜り厚くお礼申し上げます。農学部は、27年前(平成元年)に大学本部(東大阪)から移転し、現在ではキャンパス内の木々、草

花も生い茂り、四季折々の季節感を満喫しながら、学部生院生そして教職員、総勢約3000人が教育・研究に励んでおります。最近毎日のように、近畿大学は、何かとマスコミを賑わしてあり、2年連続で受験者総数が、日本1位になったことなどは、ご承知のことだと思います。これも2012年12月に、一、10年以内に関関同立に追いつき、追い越せ、二、偏差値でははかれない、独自の高い大学になれ、三、世の中に役に立つ大学であれ、という目標が掲げられたこと

年時点)。日本の18歳以上の人口を1億人とすると、社会人の200人に1人は近畿大学の卒業生と云うこととなります。多くの近大卒業生がいます。このことは、学生達が社会に出たとき、安心して話ができる拠り所になっています。卒業生同士だけでなく、卒業生と学生の絆も大切に育てて頂けたらと、緑友会の幹事を代表して、お願い申し上げます。

しかしながら、ここ数年、私が卒業したころには想像しなかったことが、始まりました。このことは、緑友会のごくに卒業生の方に影響しています。それは、この農学部を立ち上げ、作り上げてこれらに因ります。農学部も、クロマクロだけでなく多くの素晴らしい研究成果を挙げ、受験者総数も過去最高になるなど、著しく発展してきております。しかし、このような上昇気

流のときにこそ、これからの農学部がどのような立ち位置にあるべきかを真剣に考える時期に来ているのも事実です。「環境」「生命・健康」「食糧」というキーワードで、農学部としてのさらなるブランド力(個性化、差別化)を高め、農学部らしさをさらに発揮していくべきと考えます。緑友会の皆様には、このような状況をご理解いただき、さらなるご支援を切にお願いいたします。最後になりましたが、皆様のご多幸とご健康をお祈りし、挨拶とさせていただきます。

農学部の近況

事務部長代理 佐野 真紀恵



農学部緑友会会員の皆さまには、日ごろのご活躍とますますのご発展をお喜び申し上げます。

また、平素は近畿大学農学部の発展に多大なるご協力を賜り厚く御礼申し上げます。ニュース・新聞記事等でご承知いただいておりますこと存じますが、昨年に続き、本年も、志願者数全国一位という快挙を成し遂げた近畿大学であり、当然、農学部においても多くの志願者を得、その狭き門を勝ち抜いた新入生721名を迎え、現在約

た先生方が順次定年退職され、卒業生の方が農学部に来られても、「知っている先生がおられない、立ち寄れる研究室がもう存在しない」と云うことです。学生との絆を、とお願いしておきながら、大学に来られたときに、座って頂くところもありません。母校を訪ねて頂いた方々に立ち寄ってもらえる場所の準備、このあたりから活動していく所存ですので、これまで同様、新体制にも、ご協力よろしくお願い致します。

最後にになりましたが、皆様方の益々のご活躍とご健康をお祈り申し上げます。

秋には恒例の農学部祭が行われます。緑友会の皆様には足をお運びいただき、変化していく農学部を感じていただければ幸いです。最後に緑友会の皆様のご発展とご健康をお祈りし、今後もご尽力、ご助言を賜りますようお願いいたします。

農学研究科の近況

大学院農業研究科長 太田 博巳



農学部緑友会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。会員の皆様の相違わずのご支援、ご鞭撻に対して厚くお礼申し上げます。現在、農学研究科には博士前期課程112名、博士後期課程21名が在籍し、活気に満ちた研究活動に邁進しております。

また、緑友会から補助して頂いております学位論文の優秀発表者を賞する緑友会賞もすつかり定着し、大学院生たちの大きな努力目標の一つとなっております。

文部科学省が全国の私立大学の中から科学技術の伸展に寄与する研究プロジェクトを選定する「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」には、現在、農学研究科から3つのプロジェクト(「環境調和を志向した革新的植物アグリバイオ技術の統合型研究拠点」「魚類の完全養殖の高度化」)のこの子実体形成機構の



Agri 大和館 (新築の体育館)

平成26年度 緑友会賞受賞者一覧

博士後期課程

専攻	氏名	テーマ
バイオサイエンス専攻	新家 粧子	Ligand-binding studies on chitinolytic enzymes by nuclear magnetic resonance spectroscopy (核磁気共鳴法を用いたキチン質分解酵素のリガンド結合に関する研究)

博士前期課程

専攻	氏名	テーマ
農業生産科学専攻	本 傳 晃 義	(1R)-(+) - camphorの含有量が異なるラベンダー精油のアロマコロジー効果に関する研究
水産学専攻	平 野 千 早	ハダムシの生態的特徴を利用した新しい防除法の開発
応用生命化学専攻	中 谷 有 里	カイコpH感受性塩素チャネルの機能特性
環境管理学専攻	小 田 優 花	ホルモン剤を用いたタナゴ亜科魚類の人工繁殖
バイオサイエンス専攻	吉 谷 亘 平	大腸菌センサー PhoQ活性化因子SafAの作用機構

緑友会へのご寄付お願い

このたび緑友会は、会報発行をはじめ卒業生名簿の管理、緑友会賞の授与などの緑友会活動のさらなる活動充実の為の原資として卒業生のみならず寄付をお願いする次第です。経済状況が厳しい折に誠に恐縮でございますが、緑友会の現状をご理解頂き、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。なお寄付金は一口5,000円とさせて頂き、お一人様の上限はございません。お振り込みの際には、氏名、卒業年度を合わせてお知らせ頂きますようお願い申し上げます。(お手数ですが、お振り込み後にお電話またはメールで、ご住所、お名前、卒業年度をお知らせ頂ければ幸いです)

- 〇振込口座
 - 三菱東京UFJ銀行 富雄出張所 普通 3574857
 - 近畿大学農学部 緑友会
- 〇連絡先
 - 近畿大学農学部 緑友会事務局 電話 0742-43-7273 (2030)
 - E-mail ryokujim@nara.kindai.ac.jp
- 寄付者芳名一覧 (2014年度ご寄付分)
 - 竹内 孝常 様 (昭和42年度 農芸化学科)
 - 高谷 政広 様 (昭和45年度 農芸化学科)
 - 大澤 雅子 様 (平成 2年度 農芸化学科)

ご協力ありがとうございます。今後も会員相互の親睦を深め母校の発展に寄与して参りたいと考えております。どうかご支援賜りますようお願い申し上げます。(注) 公開をご希望されない方については、掲載していません

学科の近況

農業生産科学科

学科長

松田 克礼



号を認定された学生が多数卒業しています。また、奈良県平群町、八木酒造(株)、そして近畿大学農学部産官学が連携し、ヒノヒカリを使用した純米生貯蔵酒「平群」の販売を開始しました。平群町内の酒販店、道の駅などで手に入れることができます。すぐに売れ切れますので、見かけられた時には、是非ご賞味ください。

水産学

学科長

安藤 正史



イルカに代表される海棲哺乳類は従来から高校生・学部生の関心が非常に高い分野であり、今後の受験生獲得のためにも大きな期待が寄せられています。また、水産利用学研究室の伊藤智広先生が講師から准教授に昇格されました。企業との共同研究を活発に行っており、実学志向の本学にとって益々のご活躍が期待されています。今年度はセンター試験方式による入学者が大幅に増えており、水産学科の位置づけに変化が見られます。今後も教員一丸となって教育研究に努力して参りますので、ご支援、ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。

応用生命科学

学科長

飯田 彰



当学科では、本年4月に酒井麻衣講師が着任され、新しい研究室である海棲哺乳類学研究室を立ち上げられました。

当学科では、本年4月に応用細胞学研究室の財満先生が、講師から准教授に昇格されました。教育・研究における益々のご活躍が期待されます。教育面での新しい試みとして、本年度は大学院の中間発表会に、基礎ゼミの一環として1年生にも参加してもらいました。これは、研究の大切さを早期に自覚し、大学院進学に興味をもってもらうためです。研究面では、白坂教授を中心とする平成27年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業採択が注目されています。これにより、マツタケ等の人工栽培に関する研究の大きな進展が期待されます。農学部の良い、質の高い教育・研究



当学科では、第29回管理栄養士国家試験に51名が受験し、全員が合格しました(2年連続100%合格)。管理栄養士養成課程(新卒)の平均合格率は95.4%。また、本年4月1日付で、栄養機能学研究室の竹森久美子講師が准教授に昇格されました。先生方が積極的に研究業績を積み重ねて昇格されると、その研究を背景とした教育レベルも向上し、学生の能力が高まりま

当学科では、今年度から森美穂先生が准教授に昇格されました。学科設立以来実施されてきた、里山学連続講座は今年度中に50回目を迎えます。国際交流も今までと同様活発

す。それが、卒業研究や大学院での研究に繋がり、研究と教育の相乗効果が生まれてきます。研究と教育の充実が、質の高い管理栄養士を輩出し、社会貢献に繋がると考え、学科一丸となって努力してまいります。今後とも、緑友会の皆様のご支援を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。

のために、卒業生の皆様のご支援とご協力、叱咤激励を宜しくお願いいたします。

環境管理学科

環境管理学科

バイオサイエンス学科

教養・教育基礎部門

木村 正則・トーマス チャールズ クック・赤羽 仁志・西垣 佐理



に行われており、東南アジアを中心とした交流大学との連携も強固なものとなっています。一昨年度に7研究室(里山生態学、水圏生態学、保全生態学、環境化学、生態工学、国際開発・環境学、環境政策学)体制に再編されたことに加え、カリキュラムも環境問題をめぐる社会ニーズの変化に対応すべく若干の変更がありました。また、学科先生方の研究成果および環境に関する地域活動が度々マスコミなどに取り上げられています。環境管理学科のさらなる発展のため、緑友会の皆様のためまめご支援を引き続き賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



当学科では、植物生態機能学研究室のネルソン・ヘンリーエリック先生が平成27年3月31日をもってご退職になりました。ネルソン先生は、旧国際資源管理学科ならびに当学科におきまして長年にわたりバイオマス原料の探索研

究と教育にご尽力なさいました。一方、この4月にはバイオ分子化学研究室の大沼貴之講師が准教授に昇格されました。また、動物分子遺伝学研究室に米ソク研究所から岡村大治講師が着任されました。8月末には1年間在外研究で渡米されていた加藤明宣講師が無事帰国されました。若手教員の活躍と共に学科教員一同、一層研鑽を積み精励格勤する所存です。今後とも卒業生の皆様のご支援とご協力をよろしくお願ひ致します。

バイオサイエンス学科

加藤 容子

太字・新任、——・新研究室



新任の挨拶

農業生産科 学科園芸植物学研究室
講師 小枝 壮太

平成27年度4月1日付けで農業生産科園芸植物学研究室の講師として着任致しました小枝壮太と申します。京都大学にて学位を取得し、同大学農学研究所附属農場にて助教として3年間務めた後、近畿大学に参りました。

これまではナス科野菜であるトウガラシやトマトを対象として、栽培試験、分子生物学的解析、および組織培養を用いて研究を行ってきました。特にトウガラシの果実における香味制御機構の解析や、トウガラシおよびトマトにおけるウイルス病に関する研究を行っていました。近年は農業生産において世界的な問題となっているペゴモウイルスに着目し、効率的なウイルス接合法や抵抗・耐病性評価法の開発を進め、新品種育成を目指しています。近畿大学では、これまでの経験・蓄積を活かしながら、研究・講義・実習などを通じて社会の発展に貢献できる学生を育てたいと思います。ご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

水産科 海産哺乳類学研究室
講師 酒井 麻衣

4月に講師として着任いたしました酒井麻衣と申します。海棲哺乳類(特にイルカ)の社会行動や認知について、野生鯨類の水中観察、飼育個体の長期観察、バイオロギング手法などを用いて研究しております。イルカという音声によるコミュニケーションが有名ですが、胸ビレで相手をこすったり、体を接触させるといったふれあい行動も、彼らの社会を維持するのに大切であることがわかってきました。専門は動物行動学・認知科学です。生物にはまだ未知のことがたくさんあり、不思議で満ちあふれていることを学生の皆様や社会に広く発信していきたいと考えております。マグロを始めとした海洋生物の研究が盛んな農学部で研究教育活動させていただけること、大変ありがたいと思います。どうかご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

バイオサイエンス学科 動物学・遺伝学研究室
講師 岡村 大治

平成27年4月1日付けでバイオサイエンス学科動物分子遺伝学研究室の講師に就任いたしました。岡村 大治と申します。大阪大学で学位を取得し、その後、東北大学加齢医学研究所で7年ほど助教を務めました。一念発起して渡米し、ソーク研究所(サンディエゴ)で3年間ポストドクを経験し、この近畿大学に参りました。

主にマウスをモデルとし、精子や卵子などの生殖細胞の発生生物学を長く専門として参りましたが、近年はES細胞やiPS細胞などの「万能細胞」を研究対象としております。両者に共通するのは「多能性」であり、これを理解することが生涯にわたる私の一貫した研究テーマです。iPS細胞の発見により、人類は「再生医療」という将来の産業の柱の一つを手に入れました。その裾野は想像以上に広く、臨床事業のみならず培養事業・細胞自動培養装置・ゲノム遺伝子解析・創薬利用など多くの関連事業を生み出して参ります。より高度で創造的な担い手を育成することを目指し、教育・研究に邁進していく決意であります。

基礎教育部門
准教授 赤羽 仁志

本年4月、農学部教養・基礎教育部門准教授に着任致しました。赤羽仁志と申します。前職では山口大学に勤めておりましたが、ずっと文系学部の所属でございましたので、理系学部に籍を置くのはこれがはじめてになります。専門は理論言語学(生成文法)で、人間の生物学的特性の1つである言語の、特に統語に関するメカニズムの解明が主な課題です。分野的には文系の学問

の中で比較的理系指向なこともあり、同じ「生物」に関する研究を行うということもあって、農学部には大いに親しみと刺激を感じております。担当する授業は英語科目が中心ですので学生と接する場面は限られておりますが、彼らの英語力の向上に少しでも貢献できるよう、言語学的知識も応用しながら授業を展開していきたいと思っております。私の研究室は緑友会事務局入り口から入って奥にあり、これも何かのご縁と存じます。緑友会の皆様方には今後ともご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

退任のご挨拶
前学部長
前農産学教科 教授
宇都宮直樹

緑友会の皆様方におかれましてはますますご健勝のことと存じます。また、皆様方には在職期間中の23年間公私ともにお世話になりましたこと深く感謝申し上げます。私が赴任しましたのは農学部が奈良キャンパスに移転して3年目の時でした。その当時の木々はまだまだ小さかったのですが、今では校舎全体を包み込むほど大きく成長し、緑豊かなキャンパスを造り出しています。変化はキャンパスの自然環境だけでなく、農学部をとりまく社会環境も大きく変化してゆき、退職前には農学部に対する世間の期待の高まりや学生気質の変化への対応が必要であることを実感させられました。その一方で、学生の皆様と一緒に楽しいキャンパスライフを送ることができ、教員として幸せに思っております。現在は、附属農場顧問として、微力ではありますがマンゴーの栽培技術の向上や品種改良などにかかわっております。

最後にになりましたが、近畿大学農学部のますますの発展をお祈りし、退任のご挨拶とさせていただきます。

退任のご挨拶
前水産学教科 教授
高木 力

平成26年8月をもって農学部水産学を退任し、北海道大学に勤務することとなりました。平成11年に農学部に着任して以来、研究室は元より農学部の先生方や事務部の皆様にはたいへんお世話になりました。あらためてお礼申し上げます。最後まで勤務していた研究機関と異なり、自由な発想で小さな問題でも純粋な気持ちで学生達と考える気持が研究に取り組みることができたことが何よりも楽しく新鮮でした。思い起こすと、求められ行なった研究より、楽しく自由に行なった研究ほど学会だけでなく業界からの反応も大きかったように感じます。大学の果たす役割はこうしたところにあると実感します。

退任のご挨拶
前バイオサイエンス学科 教授
ネルソン・ヘンリー

農学部の皆様におかれましては、お元気で活躍のことと存じます。何よりもまずは、温かくご支援・ご指導いただいた皆様へ感謝と御礼を申し上げます。二十二年間あまりの短いキャリアでしたが、今までの人生の中では、間違いなく一番充実した時間を過ごさせてくださいました。喜びに満ちた時間でした。有り難うございました！

退任のご挨拶
基礎教育部門
准教授 白石よしえ

農学部にて2011年度所属となり、2015年度の3月をもちまして農学部から本学所属となりました。農学部での4年間は、様々な意味で人生の中で最も忘れられない日々となりました。中でも横を見れば著名な科学者がそこ、ここにおられるという希少な状況の中、基礎教育で英語を教えております私には、英語を科学的に教えるということはどういうことか、農学部らしいアカデミックな英語授業とはどういうものかを真摯に考え、研究者として成長できる機会をいただきました。本当にありがとうございます。

農学から農業へ
前バイオサイエンス学科 教授
ネルソン・ヘンリー

農学部の皆様におかれましては、お元気で活躍のことと存じます。何よりもまずは、温かくご支援・ご指導いただいた皆様へ感謝と御礼を申し上げます。二十二年間あまりの短いキャリアでしたが、今までの人生の中では、間違いなく一番充実した時間を過ごさせてくださいました。喜びに満ちた時間でした。有り難うございました！

退任のご挨拶
前水産学教科 教授
高木 力

平成26年8月をもって農学部水産学を退任し、北海道大学に勤務することとなりました。平成11年に農学部に着任して以来、研究室は元より農学部の先生方や事務部の皆様にはたいへんお世話になりました。あらためてお礼申し上げます。最後まで勤務していた研究機関と異なり、自由な発想で小さな問題でも純粋な気持ちで学生達と考える気持が研究に取り組みることができたことが何よりも楽しく新鮮でした。思い起こすと、求められ行なった研究より、楽しく自由に行なった研究ほど学会だけでなく業界からの反応も大きかったように感じます。大学の果たす役割はこうしたところにあると実感します。

退任のご挨拶
基礎教育部門
准教授 白石よしえ

農学部にて2011年度所属となり、2015年度の3月をもちまして農学部から本学所属となりました。農学部での4年間は、様々な意味で人生の中で最も忘れられない日々となりました。中でも横を見れば著名な科学者がそこ、ここにおられるという希少な状況の中、基礎教育で英語を教えております私には、英語を科学的に教えるということはどういうことか、農学部らしいアカデミックな英語授業とはどういうものかを真摯に考え、研究者として成長できる機会をいただきました。本当にありがとうございます。

緑友会会報

これまでの経験・蓄積を活かしながら、研究・講義・実習などを通じて社会の発展に貢献できる学生を育てたいと思います。ご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

農業生産科 農業経営経済学研究室
准教授 増田 忠義

平成27年4月1日付けで農業生産科農業経営経済学研究室准教授に就任いたしました増田忠義と申します。京都大学農学部(学士)、スタンフォード大学食料研究所(M.A.)を経て、ハワイ大学Ph.D.を取得、専門は農業資源経済学です。農業食料政策、アグリビジネスとフードシステム、地域振興と六次産業等を研究領域としています。

これまで(株)三菱総合研

基礎教育部門
准教授 赤羽 仁志

本年4月、農学部教養・基礎教育部門准教授に着任致しました。赤羽仁志と申します。前職では山口大学に勤めておりましたが、ずっと文系学部の所属でございましたので、理系学部に籍を置くのはこれがはじめてになります。専門は理論言語学(生成文法)で、人間の生物学的特性の1つである言語の、特に統語に関するメカニズムの解明が主な課題です。分野的には文系の学問

基礎教育部門
准教授 赤羽 仁志

本年4月、農学部教養・基礎教育部門准教授に着任致しました。赤羽仁志と申します。前職では山口大学に勤めておりましたが、ずっと文系学部の所属でございましたので、理系学部に籍を置くのはこれがはじめてになります。専門は理論言語学(生成文法)で、人間の生物学的特性の1つである言語の、特に統語に関するメカニズムの解明が主な課題です。分野的には文系の学問

基礎教育部門
准教授 赤羽 仁志

本年4月、農学部教養・基礎教育部門准教授に着任致しました。赤羽仁志と申します。前職では山口大学に勤めておりましたが、ずっと文系学部の所属でございましたので、理系学部に籍を置くのはこれがはじめてになります。専門は理論言語学(生成文法)で、人間の生物学的特性の1つである言語の、特に統語に関するメカニズムの解明が主な課題です。分野的には文系の学問

基礎教育部門
准教授 赤羽 仁志

本年4月、農学部教養・基礎教育部門准教授に着任致しました。赤羽仁志と申します。前職では山口大学に勤めておりましたが、ずっと文系学部の所属でございましたので、理系学部に籍を置くのはこれがはじめてになります。専門は理論言語学(生成文法)で、人間の生物学的特性の1つである言語の、特に統語に関するメカニズムの解明が主な課題です。分野的には文系の学問

基礎教育部門
准教授 赤羽 仁志

本年4月、農学部教養・基礎教育部門准教授に着任致しました。赤羽仁志と申します。前職では山口大学に勤めておりましたが、ずっと文系学部の所属でございましたので、理系学部に籍を置くのはこれがはじめてになります。専門は理論言語学(生成文法)で、人間の生物学的特性の1つである言語の、特に統語に関するメカニズムの解明が主な課題です。分野的には文系の学問

基礎教育部門
准教授 赤羽 仁志

本年4月、農学部教養・基礎教育部門准教授に着任致しました。赤羽仁志と申します。前職では山口大学に勤めておりましたが、ずっと文系学部の所属でございましたので、理系学部に籍を置くのはこれがはじめてになります。専門は理論言語学(生成文法)で、人間の生物学的特性の1つである言語の、特に統語に関するメカニズムの解明が主な課題です。分野的には文系の学問

基礎教育部門
准教授 赤羽 仁志

本年4月、農学部教養・基礎教育部門准教授に着任致しました。赤羽仁志と申します。前職では山口大学に勤めておりましたが、ずっと文系学部の所属でございましたので、理系学部に籍を置くのはこれがはじめてになります。専門は理論言語学(生成文法)で、人間の生物学的特性の1つである言語の、特に統語に関するメカニズムの解明が主な課題です。分野的には文系の学問

基礎教育部門
准教授 赤羽 仁志

本年4月、農学部教養・基礎教育部門准教授に着任致しました。赤羽仁志と申します。前職では山口大学に勤めておりましたが、ずっと文系学部の所属でございましたので、理系学部に籍を置くのはこれがはじめてになります。専門は理論言語学(生成文法)で、人間の生物学的特性の1つである言語の、特に統語に関するメカニズムの解明が主な課題です。分野的には文系の学問



新入生の夢

将来の夢

農業生産科学科
小林 弘樹

近畿大学農学部にはいり半

年が経ちました。この間農業についての基礎を少しずつ学んだことで価値観に変化が生じてきました。その一つは農業などの化学物質を散布することへの抵抗感です。これまでの浅い知識では農業に有害というイメージが大きく、これらの物質を使うことの有効性、利点に考えが至っていませんでした。こうした固定概念にとられないよう自分で考え、答えを出していけるよう在学中に知識を増やし、今後の人生において役に立てていけるよう勉学をすすめていきたいと考えています。

卒業後は海外での留学等の経験をいかし、日本の作物を輸出するような仕事をしていきたいと考えています。そのためにも海外で重要視される付加価値のつけ方、日本の作物がどのようにしたら他国の作物と競争していけるかをしっかりと学び、大学関係・農家の方々からノウハウを吸収し、自分自信の理念を組み立てていこうと思います。こういった行動が将来衰退している日本の一次産業を盛り上げるきっかけの一つを作ることができれば農学部に入学生、これから過ごす時間もより有意義になるのではと信じています。

先生が嫌いでした。いつも偉そうにしている、生徒のことを理解してくれなかったからです。

そんな私が先生を目指すきっかけとなったのは、中学の担任との出会いでした。常識や思いやりがなく、自分の好きなことだけ一生懸命張り、周りの目を全く気にしていなかった私は、周りに好かれるような人間ではありませんでした。そんな私を常に気にしてくれて、生徒の立場で物事を考えていたのが、その先生でした。中学生の私が心を開いた唯一の先生でもあります。私はその先生から多くのことを学びました。だから私も、この先生のように人の気持ちや理解でき、信頼されるような人間になりたいと思つたのです。そして、友達に勉強を教えたときに、教えることが好きだと感じ、先生になる決心をしました。

海や魚が好きで、魚の勉強をしたいという思いから、ずっと入学したかった近畿大学・水産学科に入りました。この喜びと、周りの方々の感謝の気持ちを忘れずに、これから4年間頑張っていきたいと思います。

私が農学部に進学しようと決めたのは中学二年生の時でした。

周りの人に比べ、だいぶ早い決断だったと思います。しかし、やりたいことは現在とは違い、林檎をいかにおいしく育てるかということでした。中学時代に林檎や作物を育てるほど体力がないということが判明し、それらを育てることに携われるものになりたかった。

そして、現在やりたいと思っていることは、農業研究です。

作物に農薬の影響が出なく、また使用する人間にも周りの環境にも影響が出ないため、安心して使用できる農薬を作ることが私の夢です。

これを実現させるために、なくてはならない勉強がたくさんあり、少しでもいいか、不安を抱えています。勉強は今しかできないので一杯努力します。

また、自分で管理できる時間が増えた今、勉強だけでなく、今しかできない体験をたくさんできるように、いかに時間を活用するかを学んでいきたいと思っています。

僕の夢

食品栄養科学科
上月 和樹

僕が所属している食品栄養

学科では多くの人が管理栄養士や食品開発企業への就職を目指していますが、僕は管理栄養士を基盤として在学中に任意で取得できる健康運動実践指導者の資格を活かした職業に就きたいと考えています。これは運動による健康づくりを指導できると認められた者に与えられる資格です。

この資格に興味を持った最大の理由は、自身の生活習慣が適切な運動によって大きく改善されたという経験があったからです。

また、適切な運動とバランスの良い食事を取ることは健康に大きく貢献しています。過去の自分もそうでしたが、このことを認識していない人

も大勢いるように思います。更に便利な世の中になるにつれて、若年層の運動習慣や生活習慣の悪化が目立っているように感じています。

こうした背景から、僕は将来自分の好きな運動を通して、健康的な生活を送る手段を多くの人々に伝えていきたいと考えています。

私が農学部に進学しようとしたのは、適度な運動とバランスの良い食事を取ることは健康に大きく貢献しています。過去の自分もそうでしたが、このことを認識していない人

も大勢いるように思います。更に便利な世の中になるにつれて、若年層の運動習慣や生活習慣の悪化が目立っているように感じています。

私の夢

環境管理科学科
杉浦 悠太

私は子供のころから生き物

や自然が好きでした。よく祖母の家に行くと、庭でダンゴムシやバッタ、アリなどを捕まえて、観察したりして遊んでいました。また、家でカメを飼ったり、カプトムシを育てたりと生き物と関わってきました。

高校で進路を迷っていた時、小さいころから好きだった生き物の勉強をやり続けたいと思いました。そこで、近畿大学農学部のオープンキャンパスに行き、環境管理科学科の研究を見ていただいた時

とても面白そうで、ここで勉強したいと強く思いました。実際に大学に入り講義を受けると、今まで知らなかった絶滅危惧種を保護していくことの大切さを知り、また外来生物の駆除活動についての話を聞くことで、いろいろな生き物への興味が増すまま湧いてきました。目標ははっきり決まっていますが、大学の4年間で視野を広げ、貪欲に学び、生き物に関わる仕事に就きたいです。そのために、自然豊かなキャンパスで多くの生き物やいろいろな人々と関わりながら、生き物やそれをとりまく自然環境について学んでいきたいと思っています。

私は、昔から理科が好きで理科の先生になりたいと思っていました。しかし、高校に入ってから、覚えることの多さやスピードの速さについていけず、理科が嫌になり学校の先生になることも諦めようとしていました。そんな時に出会ったのは、バレーボール部の顧問の先生です。その先生は、違う学年の生物を担当されていましたが、放課後にテスト対策の授業をしてくださったり、わからないところは私が納得するまで何度も説明してくださりました。そのお陰で、私は段々生物が好きになり、顧問の先生のような生物の先生になりたいと思うようになりました。

今の自分はまだまだ知識が足りません。バイオサイエンス学科では、様々な分野の講義を受けることができるので、自分の苦手な分野でも進んで受講し、たくさん知識を吸収したいと考えています。また、大学生活では、人間性を豊かにし、精神面を一層成長させることに心掛けるつもりです。そのために、勉強以外でも、サークルや地域の活動、アルバイト、スポーツを通してたくさんの人と関わっていきたく思います。このように、大学生活で得た貴重な財産をもとに、将来、生徒の疑問にわかりやすく答えられる先生になることが私の夢です。

私の夢

バイオサイエンス学科
小竹未季子

私は、昔から理科が好きで

理科の先生になりたいと思っていました。しかし、高校に入ってから、覚えることの多さやスピードの速さについていけず、理科が嫌になり学校の先生になることも諦めようとしていました。そんな時に出会ったのは、バレーボール部の顧問の先生です。その先生は、違う学年の生物を担当されていましたが、放課後にテスト対策の授業をしてくださったり、わからないところは私が納得するまで何度も説明してくださりました。そのお陰で、私は段々生物が好きになり、顧問の先生のような生物の先生になりたいと思うようになりました。

今の自分はまだまだ知識が足りません。バイオサイエンス学科では、様々な分野の講義を受けることができるので、自分の苦手な分野でも進んで受講し、たくさん知識を吸収したいと考えています。また、大学生活では、人間性を豊かにし、精神面を一層成長させることに心掛けるつもりです。そのために、勉強以外でも、サークルや地域の活動、アルバイト、スポーツを通してたくさんの人と関わっていきたく思います。このように、大学生活で得た貴重な財産をもとに、将来、生徒の疑問にわかりやすく答えられる先生になることが私の夢です。

今の自分はまだまだ知識が足りません。バイオサイエンス学科では、様々な分野の講義を受けることができるので、自分の苦手な分野でも進んで受講し、たくさん知識を吸収したいと考えています。また、大学生活では、人間性を豊かにし、精神面を一層成長させることに心掛けるつもりです。そのために、勉強以外でも、サークルや地域の活動、アルバイト、スポーツを通してたくさんの人と関わっていきたく思います。このように、大学生活で得た貴重な財産をもとに、将来、生徒の疑問にわかりやすく答えられる先生になることが私の夢です。



アーマリン近大

アーマリン近大は安心・安全・美味しい魚を提供します

近畿大学 水産研究所

大阪店
大阪府北区大深町3-1
グランフロント大阪北館6階
TEL: 06-6485-7103
ランチ 11:00~15:00 (L.O. 14:00)
ディナー 17:00~23:00 (L.O. 22:00)

銀座店
東京都中央区銀座6丁目2番先
東京高層ビル山下ビル2階
TEL: 03-6228-5863
ランチ 11:30~15:00 (L.O. 14:00)
ディナー 17:00~23:00 (L.O. 22:00)
日・夜はL.O. 21:00

※食材が無くなり次第、営業を終らせて頂きます。
※不定休(年末年始等)
※大阪店のランチのご予約は受付しておりません。

【本社】 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町1-5
TEL: 0739-42-4116 FAX: 0739-42-2600
Mail: info@a-marine.co.jp
URL: http://www.a-marine.jp

あなたの企業のお手伝い
photo shop **イナダカメラ**

21世紀へ
ニューメディア
プリント

八尾市服部川7丁目153
TEL 0729 (41) 0909 / FAX 0729 (41) 0934
携帯 09037290909
E-mail t-inada@natural.zaq.jp
代表者 稲田 忠明 (農学科 昭和43年度卒)

城崎マリンワールド

卒業生 & 職場紹介

植物防疫所の仕事―空港編―

農学研究所 農産生産学専攻 平成26年度卒
笹村 太紀

現在、私は横浜植物防疫所の成田支所で働いています。植物防疫所は、植物に有害な病虫害の侵入・蔓延を防止し、日本の農業と緑を守るために輸出入及び国内植物の検査をする機関です。

私の主な業務は、成田空港で旅行者の手荷物の植物検査を行うことです。空港には、世界中から様々な植物が手荷物で持ち込まれます。それが国内に持つて入れられないものか、また検査で持ち込める場合、病虫害が付着していないかなど



の検査を行っています。当初は見慣れない植物が多く、検査の度に困惑してました。しかし、植物防疫所は研修や講習が充実し、また職場の先輩方も丁寧に教えて下さるので、少しずつ必要な技術や知識が身につく、検査にも慣れてきました。

植物防疫所では、空港や海港での検査以外にも、日本に未発生の病虫害が侵入した場合のリスク分析や同定技術に関する調査研究、海外の生産地で日本向けの果実を検査する海外検査など様々な業務があり、今後それらに携わる事を楽しみにしています。

美味しい湖魚を食卓に

農学研究所 水産学専攻 平成26年度卒
神村 裕之

私は、平成18年度に近畿大学農学部に入学した後、卒業研究から6年間、琵琶湖でビワマスを追いかけて博士号を取得し、今年度から近畿大学発のベンチャー企業である株式会社自然産業研究所に就職しました。当社は、学生時代に研究で通いつめた琵琶湖の近くに事務所を置き、農林水産業をはじめとして、自然資源を持続的に利用しようとする民間のシンクタンクです。私は、事業開発

部で、新たな産業や雇用を創出し地域経済の活性化を目指して、廃校した小学校のプールを活用し最高に美味しい湖魚を養殖するプロジェクトに取り組んでいます。琵琶湖で研究に明け暮れていた頃から、琵琶湖の水産のために力になりたい、一次生産者である漁業者と一緒に働きたいと思っていました。今でも仕事で学生時代にお世話になった漁業者と密に連絡を取り、漁港で一緒に仕事をさせていただいております。実学を追い求める自然産業研究所は、農学を学んだ私にとって最高の職場です。



大学院生活を通して学んだこと

農学研究所 応用生命化学専攻 平成26年度卒
内藤 雅夫

私は2009年に大学を卒業し大学院を経て、外資系製薬企業日本イーライリリー株式会社で働いております。在学中は食品微生物工学研究室の白坂憲章先生の下で食品微生物を用いた機能性強化を学んでおりました。学部生の頃は大切な仲間と出会い、多くの時間を共有出来た4年間は確かに自分の中に残っていることを確信しています。大学院では研究の進行から方針まで大半を学生達の自由に任せてくださったのが印象的でした。自由と言えれば聞こえは良いですが、今振り返れば自身で考え計画し実行、そして結果を出さなければならぬ責任感のある厳しい環境だったのかなと思います。

現在、学んだマネジメント力を生かしMR（医薬情報担当者）として患者様の治療に貢献するという大きな使命を持つて働いております。担当エリアの患者様が情報提供を行っている薬によって病から回復し、健康的な生活が送れるようになることは大変な幸せであり、日々喜びを感じております。

人と人を繋ぐ仕事

食品栄養学専攻 平成26年度卒
上田 真梨子

私は、現在、栄養教諭として三重県の小学校に勤務しております。今年度は、所属校以外に小学校2校と中学校1校を兼務しております。食物アレルギー、肥満、朝食欠食など、子どもたちを取り巻く課題は多岐に渡ります。子どもたちの命に関わる仕事をしているという緊張感のなか、思うようにできず、未熟さを痛感する日もあります。しかし、子どもたちの笑顔、教職員の先生方や調理員さんに支えられ



充実した日々を送っています。そして、なにより、子どもたちの人生をつくる一人として関わることができ、とてもやりがいを感じています。

栄養教諭は、児童生徒、教員、調理員、生産者、保護者、地域を繋ぎ、専門的な立場から伝える食のコーディネーターです。だからこそ、それぞれの視点に立つて物事を考え、こまめに伝えることが大切です。栄養教諭になって早3年ですが、たくさんの人に出会い、いろいろな考えを聞くことが私の力になっています。今後も勉強し、子どもたちに還元していきたいと思っております。

研究をすることで学んだこと

環境管理学科 (平成26年度卒)
近藤 恵子

今年の春、環境管理学科を卒業し、現在は近鉄造園土木株式会社に勤めております。大学生時代は若草山の植生と土壌の関係性を研究しておりました。この頃から「街にも全ての生き物が過剰にやさしい環境を」と思い始め、この職業を選びました。主な仕事内容は、分譲住宅の庭を設計しております。しかし、設計はもちろん樹木の名前や特徴も知らないのでは、お客様との商談の際に自分自身の思いをうまく伝えることが出来ず、苦労することが多いです。この様な時は、知らない樹種を見つけたらサンプリングをし、植栽を選定する際も土壌分析を行うなど大学生時代と同様な方法で1つ1つ知識を積み重ねながら、日々勉強に取り組みんでいます。

研究はすぐに結果がでないので不安や焦ることが多いですが、諦めずに続けることにより成果は出ることを先生方や友人から教わりました。研究を通して身についた技術力や精神力をより磨き、50年後も過ごしやすい街を造りたいです。

ジェルネイルの研究

農学研究所 バイオエッセンス専攻 平成26年度卒
高橋 一生

私は株式会社サクラクレパスに勤めています。サクラクレパスと言えばクレパスでお馴染みの会社です。その他にもクービーなどの学童向け描画材を中心に、ゲルインキボールペンやマイネームなどの筆記具も製造販売しています。その中で私はジェルネイルの研究・開発を行っています。ジェルネイルとはジェル状の光硬化性樹脂を爪に塗り、UVライトで硬化させるネイルのことです。ジェルネイルの研究は入社後、最初に与えられたテーマです。社内でも初めて取り組む化粧品分野で、蓄積された知識のなか、研究することは容易ではありませんでした。新製品という責任ある仕事を任せて頂けたことは大いに発奮し頑張る材料になりました。現在の業務の一つは調色です。ジェルネイルは色数が多く、これまで数百色作りましたが、色は組み合わせてより無限に作る事ができる為、二つとして同じ色はありません。ユーザー様希望の色と全く同じ色を調色することは難しいですが、色のサクラとしてのプライドを持って取り組んでおります。



近畿大学校友会 食品支部 会員募集中!

食品支部は、食品関連産業に従事する近畿大学校友によって組織された『母校近畿大学の発展、会員相互の親睦と学びあい、ビジネスチャンスの繋ぎ』を目的とした校友会専門職支部です。

食品メーカーだけでなく、広く全国の農水産業・飲食・小売・流通・機械・設備・梱包資材等、食品産業全般から参加を募っております。

總會や研修旅行を通じて信頼関係を高めつつ、多様なビジネスチャンスへ繋げていきましょう!

校友の皆様のご参加を心よりお待ちしております!



支部概要
設立 平成26年6月7日
支部長 李忠儒
年会費 5,000円
連絡先 支部長 李忠儒
株式会社 日本東泉
大阪市住之江区中加賀屋2-10-15
TEL 06-6682-2627

在学学生だより

私の学生生活

農業生産科学科
昆虫制御学研究室四回生
中市後尚矢

私の研究室では、昆虫を農業的に利用するために昆虫の生態を研究しています。そこで私は、害虫が加害した植物のにおいに対する天敵の反応と、天敵が加害した植物のにおいに対する害虫の反応を調べています。害虫をその天敵である昆虫に攻撃させ防除することを生物的防除と言います。この研究で害虫や天敵の生態をより詳しく知ること、昆虫のより効率的な農業利用を目指しています。

居心地のいい場所

応用生命化学科
生物環境学研究室四回生
西園 縁

私がこの研究を選んだ理由は、この研究が今年度から始まる新規の研究だったからです。この研究を始める際、方法については過去に似たような方法で行った研究の論文を参考にしますが、実際にやってみると中々うまくいってなくて非常に苦労しました。ですが私は、ここで苦労したことは次にこの研究をしていく後輩たちに確実に繋がっていくと思います。そして、自分が成長するターニングポイントの一つになると思っています。

出会いに感謝

水産科学科
水産利用学研究室四回生
御手洗玲奈

近畿大学に入学してから瞬く間に時が過ぎ、早いもので卒業まであと半年ほどとなりました。振り返ってみると、私の学生生活は、とにかく「人」に恵まれていたと感じます。クラブなどを通して、自分の未熟さを痛感しながら



「食」から始まった私の道

食品栄養学
給食経営管理学研究室四回生
今井 恵

私が本学科を選んだきっかけは、祖父が生活習慣病になつたことでした。入学後は、生活習慣病をはじめ様々な知識を得ることができ、祖父がきっかけではありましたが、本学科に入学して本当に良かったと感じています。しかし「いくら正しい食事療法の知識を獲得しても食べなければ意味がない。毎日摂取する食事は、おいしく感じることでQOL向上につながるの

だ」と考えるようになり、卒論のテーマを「視覚障がい者を対象とした食卓の色彩研究」としました。研究室では保育園児を対象とした食育にも携わらせていただき、幼少期からの食の大切さを痛感しました。こういった経験をを通して、私はおいしさを追及する食品業界で仕事がしたいと思うようになり、菓子の老舗株式会社あみだ池大黒にご縁を頂く事ができました。大学で学んだ知識や経験を最大限に活かし、食の大切さや面白さを多くのお客様に伝え、提供していければと考えています。

農業土木の視点から

環境管理学科
国際開発・環境学研究室四回生
丸屋加奈子

3年目の大学生活が始まったころ、自分は将来何をしたいのか、ということを考えるようになりました。様々な企業の説明会が開催されていましたが、興味を持てるものもなく同じ研究室の先輩や先生方に相談をしたところ、公務員という選択肢もあることを知りました。

それから公務員について調べようになり、自分が特に農家の方と関わり地域を活性化させたいという思いが強いことに気づきました。また私が配属された国際開発研究室では今まで先輩方が勉強に使っていた参考書や資料も豊富にあったことから、友人と一緒に諦めることなく努力し続けることができました。結果として奈良県庁の総合土木職に合格し、春から社会人として様々なことに挑戦することになります。近畿大学農学部で学んだ知識や貴重な経験はきっと役に立つときが来ると思います。残りの学生生活も悔いのないように過ごしたいと思っています。

大学生活を振り返ってみて

バイオサイエンス学科
生命情報工学研究室四回生
平野 直樹

私は幼い頃から興味を抱いていたいろいろな生物についての掘り下げた勉強がしたいと思いましたが、思い返して入学しましたが、思い返してみると実に様々な貴重な勉強や体験ができたためか、これまでの学生生活がとても短く感じられています。入学当初こそは新しい環境の中で何もわからず、それに慣れることに四苦八苦しましたが、それでも興味のある授業を通して新しい知識を得ることはとても楽しいことでした。進級するにつれて授業の内容もより専門化、高度化して難しく感じられるようになり、この先ついていけるか非常に不安になった時期もありましたが、その分、課題に対するやりがいとそれをやり終えた後の充実感も非常に大きくなりました。また定期試験や実験レポートの作成などでも何かと大変な思いをしましたが、今ではそれらを通して得られた経験や自信が今後の自分にとっての大きな心の糧になるのだと確信しています。このような充実した大学生活を送ることができたのも何事につ

いのちをつなぐ企業 株式会社アクアテイメント



aquatainment
06-6955-9681
info@aquatainment.jp
代表 松前(西林) 水産科学科2005年卒業



け至らない自分を陰に陽に支えてくれた家族、友人、そして本学教職員の方々のおかげだと感謝の気持ちでいっぱいです。4年生になってからは就職活動に本格的に取り組むことになりました。自分の将来に向けていろいろ夢や希望を抱いてはいるものの実現の可能性については現実がなかなか厳しいようです。それでも途中で妥協したり諦めたりはせず、自分の中でこれまで培ったものを遺憾なくアピールしていくことで今までの一番ハードなこの試験を見事乗り切ろうと考えています。学生生活も残りわずかとなりましたが、これから卒業までの期間を悔いの残らないよう一杯頑張っていくつもりです。そして卒業後はこの4年間で身につけたことを最大限に活かし、社会に大いに貢献できる人間になりたいと思っています。

緑友会名簿訂正(変更)届

氏名	卒業学科	年度
所属研究室		
現住所		
住所	住	所
勤務先		

住所等間違っていた、あるいは変更がある場合、この用紙を緑友会事務局までお送りください。お電話、メールでお知らせいただいても結構です。
連絡先：〒631-8505 奈良市中町3327-204 近畿大学農学部 緑友会事務局
電話 0742-43-7273(内線2030) メールアドレス ryokujim@nara.kindai.ac.jp

原稿募集

会員の皆様から原稿を募集します。題は自由です。緑友会事務局又は研究室の先生宛に御送付下さい。

大学院生だより

私の夢と大学院

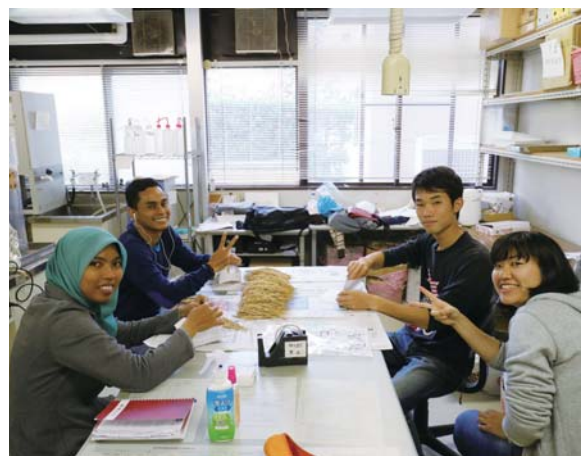
博士後期課程
昆虫生態制御学研究室

東田 景太

私は物心ついた頃から昆虫が好きで、幼稚園や小学校に通っていた時点で将来の夢は博士でした。そして、中学を経て高校に通う頃には昆虫という抽象的な夢はより具体性を帯びるようになり、かねてから興味を持っていた昆虫の農業利用について研究を行える近畿大学農学部への進学を大学院まで通うことを前提として決めました。現在、所属する昆虫生態制御学研究室では学部生時代から農業害虫のアブラムシ類を捕食する



天敵昆虫のシヨクガタマバエというハエの農業利用について研究を行っています。特に、大学院に進学してからは人工的に合成したにおい物質を使って天敵昆虫の行動を制御するというやや高度な内容の研究に取り組みようになりました。この研究を行う中では外部の企業や研究機関と共同で研究を進めていくことが多く、知識や技術以外にもコミュニケーション能力をはじめとして多くのことが身に付いてきたように感じています。これからも私の愛する昆虫たち共々、社会の役に立つ存在になりたいです。



大学院に進学して

水産学専攻博士前期課程
水産生物学研究室

日下 貴裕

私は、今年大学院に進学しました。私の研究はガンギエイの遺伝的集団構造についてです。ガンギエイは日本各地に分布するエイで練製品や乾製品の原料などに利用されていますが、漁獲量は減少傾向にあります。そこで、私は資源管理を行う上で重要な情報である本種の地域集団間における遺伝的な違いについて分析しています。

私は昨年度からこの研究を行っていましたが、昨年度までは先生や院生の方に頼ってばかりだと思えます。しかし、本年度からは誰かに任せられるのではなく自分の研究という意識を強く持ち、主体的に研究を行っています。また、同じ研究室の学生の指導などにも積極的に関わっています。これらの経験から、いろいろなことへの関心が高まり、今まで以上に広い視野を持つことができるとなりました。これからは自ら率先して取り組み、大学院生活を有意義なものにできるように日々頑張っていきたいと思っています。

私の研究生活

応用生命化学専攻博士前期課程
応用微生物学研究室

夏原 千怜

もともと化学が好きで、生物にほとんど興味はなかった私は、その時々でベストな進路選択をした結果、何の因果か、今は大学院で微生物の研究をしています。研究で「この結果にはどんな意味があるんだらう？」を考え、次の計画を立てることは、日々の楽しみになっています。

私のテーマは、微生物に有用な物質を作らせ、生産の仕組みを明らかにすることです。実際に研究を始めてみると、このテーマに夢中になりました。研究で使用している菌は、体内に油を多く蓄積する「油糧微生物」の一種で、体重の50%以上の油を貯める「メタボ」な菌です。「油糧微生物」には、燃料への応用が期待されています。この菌の油は、エネルギー問題は解決しませんが、「メタボリックシンドローム」に効果があるかもしれない。私のこれからの研究成果が、皆さんの身近な所に届くことを夢見ています。

大学院生生活一年目

応用生命化学専攻修士前期課程
食品機能学専攻

藤原 隆史

入学前、私は大学院に進学するなどは露ほども思っておりませんでした。しかしながら、就職活動中の大学四年生の時に、研究を行っていたうちに、研究の奥深さや能動的な勉強に強く惹かれ、大学院に進学することを決めました。大学院生活は学生の時とは違い、研究を進めたり、論文を読んだりするのも、全て自分のペースで行えるため、一つ一つの自分の行動に責任を持ちながら過ごすことが必要であると短い期間ながらも感じていました。また、研究は四年生の時に行っていた研究テーマである「母体高血糖が及ぼす胎児の神経幹細胞分化への影響」について引き続き研究しているのですが、この研究分野はほとんど研究されていないため、参考にする論文がなく、失敗することや壁にぶつかることが多いです。そのたびに、研究室では先生方や学生に助けられながら、たくさん刺激を受けており、有意義な研究生活を過ごすことができている。これから、現状に満足せず、貪欲に成長していきたいと思っています。

大学院に進学して

バイオサイエンス専攻博士前期課程
植物分子遺伝学研究室

白川 友美

指導教官の講義で「植物免疫」という言葉を耳にし、初めて聞く言葉に感銘を受けたことは今でも忘れません。講義の内容だけでなく、植物免疫について、もっと知りたいと現在の研究室へ入りました。研究室では、様々な実験解析方法や論理的な考え方や、初めて経験することばかりでした。実験の結果が出ないことに對する不甲斐なさや劣等感を感じ挫折しかけた時もありました。しかし、頑張りや結果に反映された時の達成感や言葉では表せないほどの喜びでした。また、その喜びを共有して、くれる同期の友人や先生方にも恵まれ、ここまで頑張ってきたことに感謝しています。実験の技術だけでなく、学会やゼミを通して、人前で話す力や計画を立てる力も身に付きました。教授、助教、研究員の方々、上回生の方々の指導や励ましには、感謝の気持ちでいっぱいです。残り少ない学生生活を充実したものとし、今後の自分の人生に繋がっていきたくと考えています。

楽しく挑戦していくことのできる研究生活

環境管理学専攻博士前期課程
生態系管理学研究室

小橋 興次

大学院では農業が水田生物多様性に及ぼす影響について研究を進めています。我々が使用する農薬の安全性は、水域環境を代表する3種類の生物に対する毒性を根拠として評価されています。しかし、生態系に対する影響を評価する試験方法は確立されておらず、今後さらに発展が期待できる分野です。3回生の講義



イネ研究の本場で

農業生産科学科 作物学研究室
講師 山根 浩二

平成27年4月15日から5ヶ月間の予定で、フィリピン国にある国際イネ研究所にて在外研究を行っています。研究所は、マニラから南東65kmのロスバニョスという町にあり、マニラとは違ってのんびりとした空気が流れています。国際イネ研究所は、1960年代に半矮性遺伝子を持つ高収量品種が開発され、緑の革命をもたらす元になった研究が行われた場所です。現在もイネ研究の中心的な役割を担っています。そのような歴史ある研究所において、世界各地から集まったイネ研究者達と研究ができることは大きな喜びであります。このような機会を与えていただいた大学、および関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



国際イネ研究所本部とその前面に広がる田んぼ

第8回農学部緑友会総会

第8回農学部緑友会総会は、平成26年11月3日(月祝)12時から農学部211教室で開催された。開会に先立ち、平成26年4月に逝去された顧問の倉田亨先生およびその他の校友の方々に哀悼の意を表し、参加者全員で黙祷を捧げた。まず初めに、緑友会会長の高谷政広先生から、以下の挨拶があった(一部抜粋)。

現在、学部生、大学院生、教職員合わせて約3000人が本キャンパスで教育、研究に邁進している。2012年11月に世耕前理事長から、3つの方針を立てられた。1つめは5年以内に関同立を追い抜く、2つめは近畿大学としての独自性を持つ、3つめはこの方針に添って大学が発展しつづける。この様な状況であればこそ、これからの農学部をしっかりと考えていく時期にさしかかっている。先の方針として教育は重要だが、研究も重要。クロマクロに代

わる次の一手を考えて欲しい。さらに、これらを担う優秀な学生に来て頂きたい。そのために「選ばれた農学部」「好まれる農学部」を目指して、これからも頑張っていく。また、会則第7章21条により議長は寺下隆夫氏に委ねられる。議題に入り、第1号議案事業報告(平成23、25年度)が谷哲弥庶務幹事より、第2号議案決算報告(平成23、25年度)が松田克礼会計幹事より、第3号議案会計監査報告(平成23、25年度)が武田徹監事によりそれぞれ行われ、満場一致で承認された。

この総会は会則第7章22条により当日の出席者(出席者数61名)をもって成立した。また、会則第7章21条により議長は寺下隆夫氏に委ねられる。議題に入り、第1号議案事業報告(平成23、25年度)が谷哲弥庶務幹事より、第2号議案決算報告(平成23、25年度)が松田克礼会計幹事より、第3号議案会計監査報告(平成23、25年度)が武田徹監事によりそれぞれ行われ、満場一致で承認された。

第5号議案新役員を代表し、新会長松田克礼から新役員を紹介と若い力で新しい緑友会を運営していくので、ご協力をお願いする旨の挨拶があった。第6号議案事業計画案(平成26、28年度)を竹森久美子庶務幹事、第7号議案予算案(平成26、28年度)を武田徹会計幹事よりそれぞれ配布資料およびパワーポイントを参考に説明が行われ、それぞれ満場一致で承認された。

松田克礼会長から以下の部長(学科長)の紹介があった、松田 克礼 教授(白楊会)、安藤 正史 教授(耕水会)、飯田 彰 教授(朝陽会)、米谷 俊 教授(食彩会)、松野 裕 教授(青山会)、加藤 容子 教授(A B I S会)

寺下議長の新役員挨拶があり、12時51分に総会を閉会した。(文責 田茂政宏)



農薬研・制御研創立50周年記念祝賀会を開催
平成27年5月23日(土) シェラトン都ホテル大阪大和の間に、近畿大学農学部農芸化学科農薬化学研究室(現・近畿大学農学部応用生命科学科生物制御化学研究室)が本年度創立より50年を迎える節目にあたり、これまでの研究室の歴史を振り返る祝賀会が開催されました。田昌之先生と駒井功一郎先生の歴任教員と約200名の卒業生と現役生が一堂に会し、松田一彦教授、森本正則准教授、伊原誠講師、卒業生有志らが幹事を務めました。祝賀会では研究室が歩んできた50年という長い時間に思いを馳せ、多くの同窓生や恩師との懇親を深めた素晴らしい祝賀会となりました。

平成27年11月3日(火)13時から、食品栄養学科卒業生の会「KINKANKAN会」イベントを開催しました。今回のテーマは「みんなの疑問質問大集合」として、日頃栄養士業務で分からないことや困った経験などを卒業生同士質問しあうことで解決の糸口がつかめるような内容となりました。また新しい取り組みとして、イベント後のフリートークタイムを設け、参加者同士がより深く話せる機会をつくりました。在学生にとってはディスカッションやフリートークに参加することで、実際の仕事内容や卒業までに身につけておきたい能力などの話を聞くことができ、卒業後のイメージや学問に対するモチベーション向上につながることであったのではないかと考えています。

山見 亮 第6回KINKANKAN会 イベントを終えて



各々がそれを自信に変えて力を発揮できるような企画・運営を考えていけたらと思います。

Table with 3 columns: Date, Item, Location. Title: 平成26年度近畿大学農学部緑友会事業報告

Table with 2 columns: Income, Expense. Title: 平成26年度近畿大学農学部緑友会決算